



天王茶所掛額句合



あき番の参り新編の  
自由の心成る一巻九  
人三の一とわらわらや平の市  
三鏡

蕪村

一室

何となくよきことや年の暮

江戸 秀竹

さしつらや起しやまの恋

一破

掃落しをさしやまの夜

胡青

道中は程も子もあそび

鳳羽

川あしは門まてまじり  
大根小

菴東

きののまきとてん身ぬあやまの山

洗心

藤の門より先すてまよひの源

成里

冷眼しつゝ年々してや平の音

後樂

輪うらみの白のちりも冬もむか

蘭々

の峯より白く水まある處 懐

廣松

巨舟やむらかかぬ中

常拂

好くして下して巖屋やあそ

惟逸

ふののちりむらむらと池の鴨

芝耕

中から下りてあそびの山

新に

うけしりを除くはや平の群

春南

あそびてはまきとてん身ぬあやまの源

柗昌

折角の月夜をまよひの山

梅亭

掃きててん身ぬあやまの源

呂光

あそびてはまきとてん身ぬあやまの源

沛雨

あそびてはまきとてん身ぬあやまの源

素柗

あそびてはまきとてん身ぬあやまの源

雪

あそびてはまきとてん身ぬあやまの源

文来

あそびてはまきとてん身ぬあやまの源

自笑

三鏡



